

「べっぴんさん」の最終回にチラシ広告で出演、
したときの格好=いずれも本人提供



苦楽共にスタツフは戦友

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(53) 草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

で大切に残しています。監督たちは玉井という熱い一人の生涯まで描いてくれたな。幸せなところに放り込まれたな、ありがたいなって。

▲大部屋時代の夢だった大河ドラマへの出演は、功名が辻(2006年)で実現した。次の夢は、大河朝ドラのポスターに載ることだった▼

▲NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(2016年度下半期)で、憎まれ役の玉井役として顔を売った▼
もう出番はないなと思っていたら、撮影も山場の頃、NHKから「最終回にもう1回だけ出てもらいます」って。「えっ! どういう形で出るの?」。ヒロインたち4人も結構おぼあさんになって、過去を振り返っている場面で、ふとチラシを見たら、衣装直して「また使えませ」って玉井の写真がぼーんと

▲自作にワンシーン必ず出演したサスペンス映画の巨匠、アルフレッド・ヒッチコック監督(1899~1980)が、「やせ業」の新聞広告に写真で登場した「救命艇」(44年)をほうふつさせた▼

昔の田舎の町会議員のようななりで、にこっと笑っている写真です。かぶ。白髪交じりで、メガネを掛けて、ひげをはやし

て。その写真、ものすごい好きにして載せるので、苦虫を潰した

最終回も意外な形で

キリスアの子供服

子供服



ヒロインたちが手がけた子ども服「キアリス」ならぬ「キリスア」というイカサマのれんを前に、おどけるドンペイさん

ような笑い方とかできますか」って言われて。含みを持たした笑いが採用されました。

NHKの王道のドラマに、メインどころで出られたのもすごいうれしかったです。放送が終わってから街歩いていても、「あれ、玉井や」とか、「えっ、べっぴんさんの人ですよね」とか、びっくりするくらい声掛けされることも多くて、朝ドラはやっぱりすごいな。嫌な役柄やけど印象に残ったみたいで良かったなって思っています。

「功名が辻」で関わっていた

監督が数人いて、その下にはきょうさんの助監督がいる。その助監督も、今では朝ドラやら大河を監督として撮っているんですよ。ありがたいことに自分が撮るときに「ドンペイさん、この役で」って誘ってくれるんですよ。「なんで使ってくださいの」って聞いたら、「なんか持ってきてくれるのが一番楽しみで」って。

中には「俺らは戦友やな」って言う監督もいて。呼んでくれたからこそ、この役はドンペイやないとだめやなって言われるように演じないと、恩返しができない。中途半端には絶対しないです。プレッシャーを感じますね。

監督たちは今後も、朝ドラや大河にいっぱい関わるわけですから、もしかしたらまたチャンスがあるかもしれません。そのときには、玉井と違った人物を印象づけたいと思います。次は、大河のポスターに生涯かかって載れたらいいですね。

サイン入り



ドンペイさんのサイン入りの「べっぴんさん」ポストカード=写真=を抽選で10人にプレゼントします。郵便番号、住所、名前、年齢、連絡先(電話番号かメールアドレス)をはがきを書いて、〒530-8799 大阪北郵便局私書箱46号、毎日新聞地域面・大澤宛へ。9月9日締め切り。

ポストカードを10人に

【編集局・大澤重人】

二つづく、水曜掲載